

高齢者の外出時における休憩空間に関する研究

Study on the resting space for elderly people who goes out

○伊佐優子¹, 八藤後猛², 中田弾³

*Yuko Isa¹, TakeshiYatogo², DanNakada³

The number of elderly people and going-out frequency are increasing. It is listed in a Barrier-free law that setting of the chair. When burdens increase by going out, an elderly person shuts themselves up. As a result, it is difficult to maintain their life independently. I advanced this study the hypothesis that going out increased to set the resting space in various ways.

As a result, elderly people take action aiming at looking for the resting space. It will clarify the resting space in the shopping mall and the action of the elderly people in future.

1. 研究背景

現在,日本では世界で最も高齢化が進んでいる.それと共に,高齢者の買い物等の外出は楽しみとし増加している^[1].また,外出時の研究においては,休憩空間の必要性^[2]が明らかとなっており,バリアフリー法のガイドラインにおいても休憩施設の必要性が論じられている.また,高齢者の外出目的としてもっとも頻度の高い日用品の買い物行動(表 1)において,負担感があると閉じこもりとなり,生活維持自体が困難になる.

そこで,高齢者の外出行動と休憩空間の利用から研究を行う.

2. 既往研究における本研究の位置づけ

既往の研究においては,現存する休憩椅子の利用評価^[3]や椅子の配置と会話の関係を観察調査により明らかにしたもの^[4]や休憩空間をアンケート調査により「休憩したい」と「休憩したくない」空間の印象を kJ 法により分類した研究^[5]はある.

しかし,これらの研究では,行動とその配置,椅子の形態の関係はわからない.本研究は,行動範囲随所に休憩スペースを設置することによって,高齢者の外出行動を促進できるという仮説のもとヒアリング及び観察調査を行い,研究を進めた.

3. 休憩空間の定義

本研究において,休憩空間とは,書湧井らの研究と同様にベンチを含め,腰をおろして休憩できる場所を休憩空間と定義し調査を行う.

表 1 高齢者の外出目的

	65~69	70~74	75歳以上
1位	買い物を する場所 96.9%	買い物を する場所 97.2%	買い物を する場所 87.9%
2位	会合・ サークル の施設 74.7%	会合・ サークル の施設 70.0%	病院・ 診療所 75.9%
3位	飲食店 72.2%		会合・ サークル の施設 51.8%
4位	公園・ 遊歩道 67.5%	病院・ 診療所 67.2%	飲食店 44.0%
5位	病院・ 診療所 54.6%	公園・ 遊歩道 51.7%	公園・ 遊歩道 40.4%

表 2 ヒアリング調査場所の詳細

対象者	人数	5 人
	平均年齢	72.3 歳
	性別	男 2 人,女 3 人
調査方法	休憩椅子と場所に対するヒアリング及び観察	
調査場所	1. 高齢者センターTの休憩空間	

表 3 ヒアリング調査結果

	対象者 1	対象者 2	対象者 3
年齢	80 歳	78 歳	75 歳
性別	男性	女性	女性
滞在時間	5 時間	90 分	3 時間
選択場所	机と椅子	机と椅子	机と椅子
利用頻度	週 5 日	週 3 回	週 3 回
使用理由	勉強, 知人会話	知人と会話, 飲食	勉強, 知人会話

4. 予備調査結果

4-1-1. 外出時の休憩空間の必要性

「高齢者の外出行動と座りスペース」については、大島ら^[6]が高齢者を対象としたアンケートによって設置間隔の要求について求めた。結果、公共空間における座りスペースは、バリアフリーに関する条件と共に街づくり計画において欠かせない事が示唆された^[3]。

4-1-2. 商店街へ求めるもの

東京都の高齢者に向けたアンケートでは、高齢者が商店街に望むサービスは、「休憩場所を作ってほしい」が一位であった^[7]。また、年齢別の商店街に望むサービスは、年齢が上がるに連れて、休憩椅子を望む割合が高くなっている^[7]。

4-1-3. 高齢者の休憩利用

介護予防が必要な高齢者を対象に日常生活の外出行動に同行し、休憩の実態状況と観察調査を行った研究では、約 200m 間隔で車の行き来などを心配せずに体を休めたり、気分転換が図れる休憩空間が必要であることが明らかとなった^[3]。

4-2. ヒアリング調査

調査場所：休憩空間の利用の高い高齢者センターT

表 2 のように、休憩の椅子の使用と会話の実態を明らかにすべく、基本的な質問と休憩の目的についてヒアリング調査を行った。主な質問事項は、利用頻度や滞在時間を調査した。高齢者センターTは、同一空間に4種類の異なる形態の椅子が存在している。その中でも、常に椅子の使用率が高かった「椅子と机が付随する休憩椅子」にて、ヒアリング調査をおこなった。

ヒアリング対象者(表 3)は、机と椅子がセットである休憩椅子を選択していた。

また、それぞれが新しく人と関わったり、知人同士で会話を楽しむ為にその場を選択していた。

特にヒアリングを行った男性は、知り合いを求めてこの休憩空間を選択していた。

5. 商店街観察調査

観察場所(図 1)：高齢化の進む地域における 商店街 T

観察調査の結果、商店街内には休憩椅子の形態として、①店舗の前に併設された不特定多数が使用可能な椅子②空き店舗を休憩空間として提供している③店舗の商品を購入後利用可能なところ④店舗の行列を待つためと、4種類の椅子があった。商店街 T の休憩椅子は、既往研究より車の行き来を心配せずに体を休められるような休憩椅子が設置されているにもかかわらず、利用されている椅子と利用されていない椅子があった。

図 1 商店街の休憩場所の様子



6. 考察とまとめ

高齢者施設の高齢者は、机のある休憩空間を選択する時、会話を求める事が分かった。また、高齢者センターにおいて、休憩空間を目的として利用している高齢者がいた。高齢者は、商店街に、休憩椅子を求めていたが、商店街 T では、利用している所と、利用されていない所があった。これらの事から、休憩空間のある場所を結びながら行動する高齢者が居ること、そして商店街内の休憩椅子には使用率の差が見られた。これから、高齢者の行動と休憩空間の配置とつくりにより外出行動を促す関係があることがわかった。

7. 今後の展開

結果より、高齢者の行動と休憩空間に関係が考えられる。今後、高齢化が進む商店街において休憩空間と高齢者の行動について明らかにしていく。

【参考文献】

- [1]内閣府、「高齢者の日常生活に関する意識調査」,p24,2010.4.2
- [2]坪井ら、「地方中核都市の中心商店街における休憩スペースの利用と評価」,日本建築学会,関東支部研究報告書,No.5011,p41,2004
- [3]絹川ら、「高齢者の利用ニーズからみた休憩空間の設置に向けた提案」,
- [4]岩田ら、「コミュニケーションを誘発する広場空間についての研究」,日本建築学会学術講演会(北陸),No.8194,p1499,2010.9
- [5]渡辺ら、「中心市街地における目抜き通りのモール化による活性化効果の検証と環境整備のあり方—大分市中央通りにおける取り組みを通して—」,日本建築学会九州支部研究報告書,No.48,p425,2009.3
- [6]大島ら、「高齢者の外出行動と座りスペース」,日本建築学会計画系論文集,No.563,p171,2003
- [7]東京都産業労働局、「高齢者の購買行動に関する調査報告書」,p31,2013.12